



乙亥のしは

中村俊定文庫  
文庫 18  
392



自叙



壬午秋秋をや、言ふこととふふとい  
 露も白と妙く、早扉寂寥をま  
 おもひにふりて、眠るがたに  
 二二のりて、上よわ。西舞東毛の  
 二集とく、初り力是、二不易をねと  
 流りて、二有夫行年か、か海いそく



そのわきの若とてえさし〜とわと一枯  
ふよの〜と〜とわと〜とわと  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
若活の一物とあり〜と〜と〜と

鶴 破玉 芝 撰



蜜曆十二歳次壬辰敦祥冬日



甲之巻



水雲〜と〜と〜と〜と  
甲〜と〜と〜と〜と  
一守節湯浴の癖とやあ〜と  
矢〜と〜と〜と〜と  
川〜と〜と〜と〜と  
こ〜と〜と〜と〜と

瘵病

冷やりの山、霞、つらハヤ

呪文

心も成れありあはれど、いひの奇

せりあへ、冷よきるまじの物もの

らの、油も、うららるるをん

順路の、君も、あふ、いんざり

導りも、形、うけ、かゝる香

谷、今、を、え、ら、ま、秋の月

見那の、ぞ、ぞ、夏、草、物

こい、結の、さ、び、う、つ、む、る、石

法習

そ、み、あ、り、ま、あ、ふ、か、ら、ら

ぬ、入、糸、三、つ、ら、あ、い、ま、あ、ら、ま

ま、あ、ら、ま、あ、い、ま、あ、ら、ま

解、ま、あ、ら、ま、あ、い、ま、あ、ら、ま

小、面、乃、あ、ら、ま、あ、い、ま、あ、ら、ま

い、つ、ま、あ、ら、ま、あ、い、ま、あ、ら、ま

能、あ、ら、ま、あ、い、ま、あ、ら、ま

お袋いづれ一海にまよふのあり  
小舟をつつむく夕の夢人  
風と波のいぢりいふるが年がぬい  
ははしぬいゝるゆゑはまは  
いのといたまはあゆまの事  
書かなくみをもくちと様  
行水の路衣も清く夏の日  
障もあふもい 服さ

虫さしの根どいとまを敵持  
ち懐くうらも人よかくしく  
ゆきまふあふまふそくま  
空と流るやふ帰のま  
白雲の音とむらぬ界のむ  
ひさし 枝のあふまふ柳

ちと甲のきやうく

いさあゆこの巻とすゝめ

甲の巻とすゝめ

い、一特いよ。

いさいとわらふん

いさあゆ

乙之巻

卯のむら雪掃けく垣根より

雨ごかしとぬいさの掃

湯治う扇え緒が尺さきさき

夫さそのすのころざらしく

川ざらん宮籬あふおの目

とけのはき風さうばり

崎端の芥をとりしが、屋守や  
そこのまはれくまが、一か村  
若きまに、早く同業をとりし  
らね、其の御も色に、少れね  
ま、袋はく、若者のやぶこめ女  
あやいめ、と、何れと、さし  
田舎に、さし、さ、田舎、あ、日  
大い、雲、つ、ゆ、草、物

こい、船の、こい、て、こい、秋の、こい  
こい、も、一、重、こい、り、ゆ、こい、か  
お、好、あ、あ、あ、あ、あ、世、常、さ、こ  
こい、よ、を、も、て、の、さ、く、島、境  
解、る、雪、あ、う、の、極、風、を、  
こい、だ、い、や、さ、ふ、小、向、の、袖  
ち、の、こい、こい、り、ん、こい、さ、り、お、お、お、あ、る  
能、地、あ、り、さ、く、あ、さ、さ、さ、あ、る



おぼくもいふのさうおぼくも  
竹をいふくうへつておぼく  
早稲の葉のさる木の葉のさる  
知るさるのさるのさる  
おぼくもいふのさるのさる  
おぼくもいふのさるのさる  
おぼくもいふのさるのさる  
おぼくもいふのさるのさる

敵ぶておぼくもいふのさる  
ついでにおぼくもいふのさる  
さるのさるのさるのさる  
さるのさるのさるのさる  
さるのさるのさるのさる  
さるのさるのさるのさる  
さるのさるのさるのさる  
さるのさるのさるのさる



海へ平らな海へかゝらぬへと  
 将へうはまなりかゝるはふたや  
 鶴更なる船とこゝに船はあか  
 ぶくはかゝる船と机とるまは  
 甲しやとて書とれ二是はさ  
 かりれとて戸地と開ふこゝに  
 との船、海へおとせとせとて

初門の二らふふをさるる事橋をたて  
あは磨一境をカキは功を日く地  
阿らりたけしむのくさるるかき  
印し何くふ川合く園をふく  
花一是は実をゆへり  
かし一は少の掉麻の角ゆり  
おそゆ一もゆふもゆふゆふ  
を花をゆへり 天人の質をゆへり

父小々法師の用教とてあは磨橋の  
けしとゆふとゆふとゆふとゆふと  
一箇よゆふ人志るるゆふと老境を  
入世をゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
らゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
形をゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

一母をすむに初門より先  
後より老成海向より入る代り  
物事家にはしむるのいふ  
まに無事なる事いふに  
何れも心より入る事  
事々しくしむる事  
事々しくしむる事  
事々しくしむる事

あー美のいふ事  
雪の

壬午卯の

澁川館

主殿





